

## 新長崎県植物誌ノート(長崎県植物誌補遺)

中西弘樹<sup>1)</sup>

Additional Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture

Hiroki NAKANISHI<sup>1)</sup>

### はじめに

本稿は2015年に発刊した「長崎県植物誌」(中西 2015)の目録の補遺を目的とする。すなわち、各種の目録の中の県内分布の項で、標本を採集しているにもかかわらず、多くの地名をあげていないものを追記しておくと共に、原稿を書き上げた後に、発見された県新産の植物と、希産種の産地追加を記録しておきたい。記載の形式は地名の後に、国土地理院5万分の1地形図の図幅名および4分割の位置、3次メッシュ地図番号、海拔、採集または確認年月日、標本番号の順に記す。一部の調査に同行いただき、また情報をいただいた川口祥勝氏、松尾美和子氏にお礼を申し上げます。

### 県内分布で産地が記載もれのもの

1. アオコウガイゼキショウ(ホソバノコウガイゼキショウ) *Juncus papillosus* Franch. et Savat. (イグサ科)

県内分布: 西海(西彼), 長崎(旧琴海), 対馬(厳原), 東彼杵, 雲仙, 佐世保(世知原)

2. オオハリイ *Eleocharis congesta* D. Don f. *dolichochaeta* T. Koyama (カヤツリグサ科)

県内分布: 西海(西海, 西彼), 長崎(相川, 旧琴海), 諫早(森山)

3. フトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C. C. Gmel.) Palla (カヤツリグサ科)

県内分布: 平戸, 諫早(森山), 長崎(旧琴

海), 対馬(美津島), 佐世保(宇久)

### 県新産の在来種

1. コチャガヤツリ *Cyperus amuricus* Maxim. var. *japonicus* Miq. (カヤツリグサ科)

大村市中岳町久良原[諫早3, 4930 30 61], 250m, July 25. 2015, (No 23441)

公園の空き地に生育していたもので、何となくチャガヤツリと違って見えたので、持ち帰って調べた結果、コチャガヤツリであることがわかった。チャガヤツリに似ているが、小穂がややまばらにつくこと、瘦果が1mm以下と小さいこと(チャガヤツリは1.3mm)、生育地が人為的な環境であることなどで区別できる。県下に広く見られることと思われる。

2. クロクモソウ *Saxifraga fusca* Maxim. subsp. *kikubuki* (Ohwi) Kitam. (ユキノシタ科) (図1)

大村市黒木町小川内谷[諫早3, 4936 30 55], 500m, Sept 30. 2015, (No 23505)



図1. クロクモソウ

<sup>1)</sup>〒851 2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29 4 亜熱帯植物研究所

川口祥勝氏が発見したものであり、ご案内していただき、確認することができた。ゆるやかな滝の岩上に多数の個体が生育していたが、株が滑り落ちているのもあった。九州のものはナンゲククロクモソウとして区別されることもある。

3. ホソバヤブコウジ *Ardisia japonica* (Thunb.) Blume var. *angusta* (Nakai) Makino et Nemoto (サクラソウ科：旧ヤブコウジ科)(図2)



図2. ホソバヤブコウジ

長崎市琴海形上町飯盛山[大村4, 4929 35 19], 500m, Aug 27. 2015, (No 23554); 同市琴海形上町長浦岳[神浦2, 4929 25 99], 550m, Aug 23. 2015, (No 23467); 西海市大瀬戸町久良木郷久良木山[神浦2, 4929 25 98], 550m, Aug 27. 2015, (No 23553)

西彼杵半島の海拔500~550mの山地の尾根付近の林床や林縁に細い葉をもつヤブコウジ類の植物が群生しているのを発見した。葉身は線状長楕円形、長さ3~3.5cm、幅1~1.5cm、単立して生育していることはなく、ほとんど群生している。文献で調べた結果、ヤブコウジの変種ホソバヤブコウジに該当することがわかった。ホソバヤブコウジについて、大橋(1999)は産地として伊豆大島、屋久島、台湾をあげている。また鹿児島県のRDB(鹿児島県環境生活部環境保護課, 2003)の中では、準絶滅危惧種とし、大隅半島中・南部山地、屋久島高地をあげており、まれな種ではないとしている。今後、長崎県内ばかりでなく、九州各地の山地に発見される可能性がある。

4. セキヤノヒキオコシ *Isodon × inamii* Murata (シソ科)(図3)



図3. セキヤノヒキオコシ

大村市黒木町小川内谷[諫早3, 4936 30 55], 450m, Sept 30. 2015, (No 23507)

ヒキオコシとアキチヨウジの雑種で、花筒の長さが、それらの中間である。本雑種も川口氏が発見されたものであり、林道の縁に生育していた。

#### 県新産の外来種

5. センネンボク *Cordyline fruticosa* (L.) A. Chev(クサスギカズラ科, 旧リュウゼツラン科)(図4)

長崎市園田町式見ダム周辺[長崎3, 4929 16 45], 80m, Dec .1. 2015

アジア東部の暖温帯、オーストラリア北部、インドネシアの一部などの原産。栽培植物として導入されたもので、関東地方ぐらまで野外で越冬することが知られている。これまでも県内で野生状態を見たことがあったが、根茎で繁殖していることが観察され、確実に野生化していることがわかった。和名は『牧野新日本植物図鑑』ではドラセナとしているが、ドラセナ属(*Dracaena*)植物ではなく、最近是用いられな



図4. センネンボク

くなった。

6. ゴマフガヤツリ *Cyperus sphacelatus* Rottb. (カヤツリグサ科)

佐世保市宇久町平郷 [小値賀島 1, 4929 71 11], 2 m, Oct .3 . 2015, (No 23518)

熱帯アメリカまたはアフリカ原産の帰化植物で、関東地方や大阪などで記録されてきたが、上記の地の街路樹の下に生育していた。高さ20~30cmで外見はコゴメガヤツリに似ているが、小穂の鱗片の中肋が緑色、側面は白膜質で大きな紫褐色の斑点があることが特徴である。

7. チャボウシノシツペイ *Eremochloa ophiuroides* (Munro) Hack(イネ科)(図5)

東彼杵郡東彼杵町大野原 [早岐 2, 4929 47 39], 440m, Sept 22 . 2015, (No 23556)

東南アジアから中国南部原産の帰化植物、芝生植物として導入されたものであるが、大野原草原の道端に広がっていた。高さ10~20cm、花序は長さ3~3.5cmで、針形または線形、赤褐色でよく目立つ。



図5. チャボウシノシツペイ

8. オトメフウロ *Geranium dissectum* L.(フウロウソウ科)

大村市久原 [大村 2, 4929 27 88], 40m, Jan . 6 . 2016, (No 23594)

川口祥勝氏が上記の地の畑で発見したものである。アメリカフウロに似ているが、花が濃紅色であること、葉がより深く切れ込み、上部の葉では裂片が線状になること、果実には腺毛と短毛がまじることなどによって区別できる。

希少植物の新産地

1. ミドリヒメワラビ *Thelypteris viridifrons*

Tagawa (ヒメシダ科)

長崎市琴海戸根原町中ノ岳 [大村 4, 4929 26 70], 400m, Aug 27 . 2015, (No 23580)

上記の産地は松尾美和子氏が発見したもので、私も自生地を確認することができた。ヒメワラビと似ているが、小羽片に柄があることで区別できる。生育立地はヒメワラビと同じように林縁部に生育しているが、ヒメワラビのように先駆的に侵入することはないので、生育地は限られている。県内ではこれまで五島市上大津町、大村市で確認されており(中西 2014)、県内3カ所目の発見である。

2. キノクニスゲ *Carex matsumurae* Franch(カヤツリグサ科)

五島市三井楽町姫島 [三井楽 1, 4928 15 64], 80m, June 1 . 2015, (No 23406); 五島市黄島 [富江 2, 4828 67 82], 50m, Sept .19 . 2015; 壱岐市芦辺町箱崎 [勝本② 4, 5029 66 00], 150m, June 12 . 2015, (No 23370)

本種は島嶼偏在分布植物として知られているが、五島列島からは長い間知られておらず、中西(2014)が福江島で唯一、旧福江市上大津町発見していた。さらに姫島と黄島にも生育していることがわかった。また、壱岐では南端の初瀬には生育していることが知られていたが、海岸からやや離れた男岳神社の社叢の林床にも群生していることを確認した。

3. ハマムギ *Elymus dahuricus* Turcz. ex Griseb. var. *dahuricus* (イネ科)

壱岐市石田町筒城仲触 [勝本④ 3, 5029 56 13], 2 m, June 12 . 2015, (5029 56 13)

北方系の海岸植物で、日本海側を長崎県対馬と壱岐まで分布し、長崎県が南限となっている。壱岐では最北部に知られていたが、上記の地にも群生していることがわかった。ここが南限自生地となる。生育地は礫堤(礫でできた浜堤)であった。

4. ウンヌケモドキ *Eulalia quadrinervis* (Hack.) Kuntze (イネ科)

西海市西海町中浦北郷伊佐の浦西 [佐世保南部 3, 4929 45 24], 200m, Oct .29 . 2015, (No 23521)

これまで県内では長崎市の北部の丘陵地にのみ確認していたが、上記の地にも生育しているのを採集した。

5. ショウベンノキ *Turpinia ternata* Nakai (ミツバウツギ科)

五島市三井楽町姫島 [三井楽 1, 4928 15 64], 80m, June 1. 2015, (No 23408)

本種はこれまで男女群島以外では、南島原市加津佐町と五島市崎山にのみ知られていたが、三井楽町の姫島の調査で、発見することができた。この島は今では無人島であるが、かつては多くの人が住んでいた。したがって、植生は二次林であるが、ショウベンノキが多いことがわかった。本種の北限自生地である。

6. ハマジンチョウ *Myoporum bontioides* (Siebold et Zucc.) A. Gray (ゴマノハグサ科, 旧ハマジンチョウ科)

五島市富江町女亀 [富江 3, 4828 76 23], 3m, Sept. 18. 2015, (No 23514)

本種の五島列島における分布は外山・伊藤 (1975) によって詳しく調べられている。その後に見出された生育地も含めて、福江島では玉之浦湾沿岸と北部 (三井楽町, 岐宿町) が知られていたが、富江町にも群落があることを発見した。生育地は海流に運ばれた砂礫が堆積したごく小さな無人島で、干潮時には本島とつながる。ハマジンチョウは島の中央部に生育し (図 6), 樹高約 2m, 面積約 7m × 5m の範囲に



図 6. 小さな無人島に生育するハマジンチョウ群落純群落を形成していた。また、その周辺部はヒメハマナデシコ, ハマヒルガオ, ハマゴウ, ケカモノハシなどの海岸植物が生育していた。

## 文 献

- 鹿児島県環境生活部環境保護課 2003. 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編 657pp., 財団法人過去島研環境技術協会, 鹿児島.
- 中西弘樹 2014. 長崎県植物誌ノート (42). 長崎県生物学会誌 75: 1-4.
- 大橋広好 1999. ヤブコウジ科 MYRSINACEAE. 佐竹義輔・原 寛・巨理俊次・富成忠夫編 日本の野生植物木本Ⅱ. 新装版. pp. 157-162.
- 外山三郎・伊藤秀三 1975. 西九州におけるハマジンチョウの分布と生態. ヒコピア 7: 117-125.